

阿南中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

「生徒が主体的に学び合い深め合う授業の実践」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 坂本和裕	教務主任 江口 文	2年主任 和泉淳子
和田 研作		教頭 長尾 彰	研修主任 多田利行	3年主任 八木知加
		教頭 木下敦志	1年主任 貴田悦子	各教科主任

校長

坂本 和裕



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	多くの生徒は意欲的に学習に取り組むことができている。また音読や発表など表現することにも積極的である。方法や手順がわかる学習にはまじめに取り組むことができる。	「授業の内容がだいたいわかる」の「強くそう思う」と「そう思う」生徒を80%にする。			
課 題	粘り強く繰り返し学習することが苦手な生徒が多い。そのため理解を深めることができず、基礎的・基本的な内容が定着していない生徒が多くみられる。	①家庭学習を「毎日1時間以上している」を50%以上にし、「全くしない」を0%にする。 ②毎日継続し、既習事項の復習をさせる。 ③長期休業中に3日～5日実施する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①「がんばりノート」を活用させ、家庭学習の定着を図る。 ②毎朝のセミナーで基礎的知識の習得を図る。 ③長期休業中の各学年による補充学習(質問教室)を実施する。				

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業中の発表にはまじめに取り組んでいる生徒が多い。また話し合いなどの活動に積極的に取り組める生徒が多い。	「学習した内容をまとめたり、人に伝えたりできる」の「できる」を70%にする。			
課 題	自分の課題や目的に応じて聞き取ったり、まとめたりする力、また必要な情報を選択し、筋道を立てて説明することが苦手である。	①授業の振り返りを行う。 ②年間通じて授業参観(T.T)を実施。 ③「授業が工夫されていて楽しい」生徒を80%以上にする。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①授業の中に話し合いや教え合いの場面を設け、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりする機会を積極的につくる。 ②授業力向上の研修を行う。				

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	自主学習ノート「がんばりノート」が定着しており、家庭学習率も高い。また、2分前着席の習慣も身につけてきている。	①「がんばりノート」の活用率90%を目指す。 ②「ノーチャイムで自主的に着席ができてい」る「授業の準備物を忘れないようにする」を90%以上にする。			
課 題	「がんばりノート」の使用が形式化・非効率化し、必ずしも学力向上に直結しているとはいえない。また、2分前着席はできているが、その2分間を有効に使えていない生徒がみられる。	①定期的に「がんばりノート」コンテストを実施。 ②2分前着席後に学習すべき内容を指導する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①定期的に「がんばりノート」コンテストを実施。 ②2分前着席後に学習すべき内容を指導する。	①定期的にノートのページ数調べを行い、ページ数が多いクラスを表彰する。 ②「始業時間とともに授業が始められるように工夫している」を100%にする。			

平成31年度 学力向上ロードマップ

